

新入社員の早期自立を促進する体系的研修プログラムの導入

遠山 創太
日本ナレッジ株式会社

はじめに・背景

当社では、ソフトウェアテスト業界経験者の採用数が低調であることへの対策として、数年前から未経験者の採用を強化し、自社でのエンジニア育成に注力している。しかし、採用数の増加に伴い、従来のOJT中心の教育では新入社員を効果的に育成することが難しくなり、プロジェクトに求められるスキルとのミスマッチや育成に時間がかかる問題が生じていた。この課題を解決するため、統一された研修プログラムを導入した。

概要

本事例では、当社が新入社員教育の改善施策として導入した新入社員研修プログラムについて紹介する。1か月の研修で、広範な基礎知識を体系的に習得し、演習を通じて実践的なテスト技術を強化する。さらに、研修を振り返る機会を設けることで、新入社員の内省支援を行う。研修の導入により、新入社員のスキルが向上し、早期に自立した業務遂行が可能になった。本事例は、体系的な新入社員教育の重要性と、それがもたらす組織的な変化の可能性を示すものである。

基礎研修の主な内容は以下の通り。

テーマ	広範な基礎知識を学び、テスト技術の体系的知識と実践的知識を学ぶ研修
目的	<ul style="list-style-type: none">・テストの世界を俯瞰的に理解する・ソフトウェアテストの体系的な知識習得
対象者	新入社員（新卒／中途）
形式	オンラインおよび対面（東京、名古屋、札幌）
運営担当	<ul style="list-style-type: none">・講師: 1名 (1人月)・サポート講師: 1名 (1人月)
期間	1か月
内容	<ul style="list-style-type: none">・JSTQB FL 学習: ビデオ学習、理解度チェックテストあり・テスト技法演習: 同値分割法、境界値分析、デンジョンテーブル、状態遷移テスト・テスト実行演習: サンプルアプリケーション使用、不具合報告の指導・テスト自動化演習: テスト自動化の概要理解、ツールを使った自動化の体験・SQL演習: データベースの基本的な操作を学習・研修成果発表: KPTで振り返り、社内発表

問題提起

新入社員はソフトウェアテストの基礎知識が不足している。このため、OJT中心の教育では習得知識やスキルにばらつきが生じ、プロジェクトで求められるスキルとの間にギャップが発生している。均一な基礎スキルの習得が難しいため、体系的な知識と実践スキルを提供する必要がある。

個々の問題に対する課題

1. **基礎知識の不足:** ソフトウェアテストの基本概念や理論を体系的に学習する必要がある。
2. **教育のばらつき:** 統一された研修プログラムと教材で教育内容を標準化する必要がある。
3. **実践的スキルの不足:** 実務に即した演習やトレーニングを通じて実践的なスキルを習得する必要がある。

個々の課題に対する対策

1. ソフトウェアテストの基礎知識を習得:

- ・ **対策:** JSTQB FL 学習を導入。ビデオ教材と理解度チェックテストを提供。
- ・ **具体的な行動:** JSTQB FLのシラバスに基づき、スライドと音声解説付きビデオ教材を作成し、学習後に理解度チェックテストを実施。
- ・ **工夫した点:** 音声解説を加えたビデオ教材で理解を深め、理解度チェックで知識の定着を確認。
- ・ **苦労した点:** 教材作成に多くの工数を要し、特にシラバスの誤った解説をしないよう注意を払った。

2. 教育内容と運営の標準化:

- ・ **対策:** 共通の研修プログラムを設計し、ビデオ教材や標準教材を使用して一貫した教育を提供。さらに、研修運営マニュアルを作成し、教育と運営の手順を標準化。
- ・ **具体的な行動:** 全拠点で共通の研修プログラムを導入し、Microsoft Teamsで質問対応と進捗管理を行った。テスト技法やSQLの演習問題は社内勉強会の資料を再利用。運営マニュアルを整備し、教育内容と進行手順を統一した。
- ・ **工夫した点:** 詳細なタイムテーブルを設定し、標準化された運営手順を確立。質問対応や進捗管理を効率化し、全体の教育内容と運営の一貫性を保った。
- ・ **苦労した点:** 研修運営の標準化に多くの時間と工夫が必要で、進捗調整と標準化の維持に苦労した。

3. 実務に即したスキルの習得:

- ・ **対策:** サンプルアプリケーションを使い、テストケースの実行と不具合報告の実践演習を行うことで、体系的な知識と実務スキルを結びつけた。
- ・ **具体的な行動:** サンプルアプリケーションを用いて、機能仕様書とテストケースに基づく実践演習を実施。不具合報告書の作成を指導し、実務に即したスキルを強化した。
- ・ **工夫した点:** 不具合報告の質向上を重視し、不具合票のレビューに時間をかけた。IVECのシラバスを参考に、不具合報告講座の資料とビデオを作成し、体系的知識の実務への適用を促進した。
- ・ **苦労した点:** 不具合報告の講座資料とビデオの作成に多くの時間と労力を費やした。演習の実施中は、不具合報告のレビューに多くの時間を割く必要があった。

結果・まとめ

研修プログラムの導入により、以下の解決状況が確認された:

- ・ **基礎知識の均一化:** プロジェクト参画前の段階で、新入社員が一定水準の基礎知識を均一に習得した。これにより、迅速にプロジェクトで即戦力としての役割を果たせるようになった。
- ・ **実践的スキルの習得:** 実務に必要なテスト技術や不具合報告のスキルを効果的に習得し、プロジェクトでの実践スキルを高めた。

研修生へのアンケートから、次の結果が得られた:

- ・ **総合満足度:** 研修参加者の 約90% が「非常に満足」と評価。教材の質と実践的な演習が特に好評で、理解が深まったとの声が寄せられている。
- ・ **理解度向上:** 約95% の参加者が「理解度が非常に向上した」と回答。JSTQB FL 学習と実践演習が効果的で、基礎知識の習得に成功している。
- ・ **実務への役立ち度:** 約90% が「実務に非常に役立つ」と評価。実務に直結するスキルを得たことで、即戦力としての役割を担えるようになった。

また、以下の副次効果も確認された:

- ・ **リードタイム短縮:** 新入社員のプロジェクト参画までのリードタイムが約20%短縮され、早期にプロジェクトで有償化される機会が増加した。社員の基礎知識とプロジェクトで求められるスキルのギャップに改善の兆しが見られ、プロジェクト参画がスムーズになり始めた。
- ・ **資格取得率の向上:** 全社でJSTQB/IVEC資格保有率が 15% 向上し、社員のスキルアップに寄与した。

新たに見えてきた課題と今後の施策は以下の通り:

1. 課題:

- ・ **テスト実行と設計スキルの強化:** 基礎知識は習得できたが、実務に即したテスト実行と設計スキルにはさらなる強化が必要。

2. 施策:

- ・ **テスト実行演習の拡充:**
 - ・ **目的:** 実践的なテスト実行スキルと、不具合報告および進捗管理スキルの向上。
 - ・ **内容:** 既存のサンプルアプリケーションを使用し、実務に近い環境でトレーニング。KPTを用いてテスト実行演習の振り返りも実施。
 - ・ **期間:** 1か月 (2か月目)
- ・ **テスト設計演習の強化:**
 - ・ **目的:** 網羅的なテスト設計の基礎を習得し、段階的詳細化の理解を深める。
 - ・ **内容:** 既存のサンプルアプリケーションを使用した演習。IVECのシラバスを教科書として、機能テストの設計スキルを向上させる。
 - ・ **期間:** 1か月 (3か月目)

これにより、研修プログラムはより実践的な内容となり、社員の実務対応能力の向上を図る。2024年4月から施策を開始し、現在進行中。

参考文献

1. 一般社団法人IT 検証産業協会 (IVIA). (2024). IT検証技術者認定試験 IVEC テスタークラス シラバス. Version 3.0.
2. 一般社団法人IT 検証産業協会 (IVIA). (2024). IT検証技術者認定試験 IVEC デザイナークラス シラバス. Version 3.0.
3. 日本ソフトウェアテスト技術者資格認定委員会 (JSTQB). (2019). ISTQBテスト技術者資格制度 Foundation Level シラバス 日本語版. Version 2018V3.1.J03.
4. 飯村結香子, 大森久美子, 西原琢夫, 川添雄彦. (2018). ずっと受けたかったソフトウェアエンジニアリングの新人研修第3版 エンジニアになったら押さえておきたい基礎知識. 翔泳社.